

三井物産のCSR



社会への貢献

現代社会は、グローバル化やICT化が加速し、多様性に満ち、活力に富み、成長や変化のスピードが速くなる一方、世界的な課題である地球温暖化、食料、エネルギー、水資源などの環境・資源問題、人権や貧困、児童労働や教育の格差など、経済、環境、社会面において多種多様な課題を抱えています。

私たち民間企業の持続的な発展も、社会全体の持続可能性(サステナビリティ)の向上なくして達成することはできません。自社が存在する地域社会、国家、国際社会などが、さまざまな課題を克服してより良い未来に向けて一歩ずつ歩いていく、その歩みに対し、企業が貢献していくことこそ、社会に属する一員としての責務であると認識しています。

当社では、本業を通じた社会への貢献を継続的に行うことが、企業の社会的責任であると考えています。事業を興し、新たな価値を創造し、人と人との関係を構築しながら、日本を含む世界経済や地域社会の健全な発展、また人々の生活水準の向上に、直接・間接に貢献していきたいと思っております。

価値観の源流は旧三井物産の創業時代に



1876年創業の旧三井物産*は、第二次世界大戦後間もなく財閥解体により解散し、同社の歴史に幕を下ろしました。しかしその後、現在の三井物産が「挑戦と創造」「自由闊達」「人材主義」といった価値観を共有した元社員たちにより立ち上げられました。現在の三井物産も、旧三井物産と同様、新たな価値を創造することで社会の発展に貢献しています。

私たち三井物産の事業や仕事の進め方、ものの考え方の基本は、その多くが旧三井物産初代社長・益田孝の遺した価値観、仕事への姿勢に表れています。そこには、当社のCSR(企業の社会的責任)に対する考え方が明確に織り込まれており、その考え方は今も全く変わりません。

* 旧三井物産は、GHQの指令により1947年に解散したことから法的には旧三井物産と現在の三井物産には継続性はなく、全く個別の企業体です

「眼前の利に迷い、永遠の利を忘れるごときことなく、遠大な希望を抱かれることを望む。」
「三井物産会社を設立したのは、大いに貿易をやりたいというのが眼目であった。
金が欲しいのではない、仕事がしたいと思ったのだ。」
「三井には人間が養成してある。これが三井の宝である。」



益田 孝

三井物産の経営理念

これらの事業・仕事におけるものの考え方や価値観・姿勢(Values)は、長らく明文化されたものはありませんでしたが、2004年に暗黙知として共有して来た価値観・理念を体系化・明文化し、「三井物産の経営理念(Mission, Vision, Values)」を策定しました。経営理念の共有は、当社がグローバルな事業活動を通じて世の中に本当に価値のある仕事を創造していくうえで、今までも増して重要になっていくと考えます。

経営理念(MVV)

Mission

三井物産の企業使命

大切な地球と、そこに住む人びとの夢溢れる未来作りに貢献します。

Vision

三井物産の目指す姿

世界中のお客さまのニーズに応える「グローバル総合力企業」を目指します。

Values

三井物産の価値観・行動指針

- 「Fairであること」、「謙虚であること」を常として、社会の信頼に誠実に、真摯に応えます。
- 志を高く、目線を正しく、世の中の役に立つ仕事を追求します。
- 常に新しい分野に挑戦し、時代のさきがけとなる事業をダイナミックに創造します。
- 「自由闊達」の風土を活かし、会社と個人の能力を最大限に発揮します。
- 自己研鑽と自己実現を通じて、創造力とバランス感覚溢れる人材を育成します。

本業を通じた価値創造と「三井物産のCSR」

社会が持続可能でなければ、会社も持続可能とはなりません。また、会社が持続可能でなければ、社会的責任を果たすことはできません。三井物産はその時代の中で、社会はどう変わっていくのかを常に考え、私たちのポテンシャルを発揮するために自社の機能をどのように進化させるべきかを、連綿と追求し続けてきました。環境や社会に対する感度(センシビリティ)の向上に努め、日本と世界のあるべき姿を模索し、より良い未来のため、どのような貢献ができるかが当社に求められていると考えています。

私たちは、未来のビジョンと社会の課題を見据え、本業を通じて価値を提供し、持続可能な社会の構築に向けて貢献することで、「三井物産のCSR」の実践をしていきます。そのために(1) 世の中にとって役に立ち、(2) お客様やパートナーの皆さまにとって有益な付加価値を生み出し、(3) 社員一人ひとりのやりがいや納得感につながる、3つの視点をもって「良い仕事」を積み重ねます。

「三井物産のCSR」を支える理念・方針

「CSR基本方針(2004年策定/2013年改正)」は、当社の全企業活動の土台となる「経営理念(Mission Vision Values)」のもと作成されました。私たちは、「大切な地球と、そこに住む人びとの夢溢れる未来作りに貢献する」ことを使命とし、ステークホルダーと対話しながら本業を通じて社会へ価値を創造し続けています。

また、当社の2020年の在り姿を描いた「長期業態VISION」(2009年発表)では、在り姿の一つとして「時代のニーズの産業的解決者」になることを掲げています。これは正に当社経営理念(使命)を一言で言い表したものであり、この実現に向けて本年策定した「新中期経営計画Challenge & Innovation for 2020 ~三井物産プレミアムの実現~」を達成するにはCSR基本方針の徹底した実践が必要不可欠であり、引き続き真摯に取り組んでいきます。

CSR基本方針と推進体制

CSR基本方針

1. 企業の社会的責任に対する社員一人ひとりの意識を高め、世界各国・地域の文化、伝統、慣習の理解に努め、公正かつ誠実な企業活動を展開します。そして、確かな経営基盤のもと、会社の価値を持続的に向上させるとともに、社会へ価値を提供し続けます。
2. 企業の存在意義・役割を十分に考え、地球環境の保全を意識し、社会に積極的に貢献することで、持続可能社会の実現を目指します。また、社会の期待に応えるため、ステークホルダーとの双方向の対話を重視し、説明責任を果たします。
3. 世界人権宣言等国際的基準を支持し、人権を尊重します。事業活動におけるあらゆる場面で労働基本権を尊重します。
4. 上述方針の実践をグループ企業にも求めるとともに、取引先の皆様から良き理解と協力が得られるように努め、グローバル企業としての責任を果たします。

CSR推進体制の構築

2004年度に経営会議の諮問機関として「CSR推進委員会」を設置し、CSRに関する社内体制の構築や、社員への意識啓発に取り組んできました。そして、企業の社会的側面における姿勢や活動に対する社会からの期待や要請に応えるべく、当社の各部署が横断的に連携してCSR関連活動を推進しています。

また、各ユニットにおけるCSR経営の実践支援や意識浸透など、現場と一体となった活動の企画・推進を図るため、コーポレートスタッフ部門、各営業本部、海外地域本部および国内支社・支店に「CSR推進担当者」を設置し、社内ネットワークを構築し、四半期に一度、情報共有の場として「CSR推進担当者会議」を開催しています。2013年度もCSR推進担当者が中心となって、各現場で社内CSRセミナーやワークショップの開催、社外有識者や取引先を招いた講演会などを実施しました。

CSR推進体制



CSR推進委員会

CSR推進委員会は、CSRIにかかわる経営方針および事業活動に関する経営会議への提言、CSR経営の社内浸透、また「特定事業」に対する答申などをその目的としています。

委員会は、コーポレートスタッフ部門担当役員（経営企画部担当）を委員長、コーポレートスタッフ部門担当役員（人事総務部・法務部担当）を副委員長とし、経営企画部（事務局）、IR部、広報部、人事総務部、法務部、事業統括部、環境・社会貢献部といったコーポレートスタッフ部門各部長により構成され、以下に掲げる事項を役割として活動しています。

1. CSR経営の基本方針およびCSR推進活動の基本計画の立案。
2. CSR経営の社内推進体制の構築および整備。
3. CSR推進活動の年次重点課題の策定と推進。
4. CSRIにかかわる社内外対応。
5. 特定事業に該当する個々の案件の推進可否、または推進する場合の留意事項などに関する答申。

また、CSRIにかかわる諸課題への対応を目的に、CSR推進委員会の下部組織として、環境諮問委員会を設置しています。

三井物産を取り巻くステークホルダー

三井物産は、当社の多種多様かつグローバルな事業活動が社会に及ぼす影響を見極めのうえ、利害関係を持つステークホルダーを特定すべく対応しています。

ステークホルダーとの双方向の対話を通じて、当社の役職員一人ひとりが、社会からの期待や要請をしっかりと把握したうえで、市場の環境変化に適応しつつ自らを絶え間なく進化させ、本業を通じて社会の役に立つ三井物産らしい価値を創造し、社会に提供していきます。



株主・投資家	地域社会	NPO / NGO	社員	消費者	取引先
<ul style="list-style-type: none"> >> IR説明会 >> IRサイト >> 株主通信 	<ul style="list-style-type: none"> >> ボランティア月間 >> 三井物産の森 >> 社会貢献活動 	<ul style="list-style-type: none"> >> 三井物産環境基金交流会 >> 環境コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> >> 人材育成 >> ダイバーシティへの取り組み >> 働きやすく、働きがいのある職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> >> 「安全・安心」への対応 >> webサイトお問合せ窓口 	<ul style="list-style-type: none"> バイヤー・サプライヤー 事業投融資先・パートナー >> サプライチェーンへの取り組み

ステークホルダーとの対話

「事業活動を通じて価値を創造し続け、日本を元気に、世界を豊かにしたい。」その想いを実現するために、社員、取引先・株主・パートナー企業の皆さま、商品を手にする消費者など、当社を取り巻く人々が何を必要とし、私たちに何ができるのかを考えることは不可欠です。当社は、ステークホルダーの声に耳を傾け、社会の動きを把握することに取り組んでいます。

2013年度の活動

- 2013年12月 ワークショップ「三井物産のCSRと良い仕事」
- 2013年10月 「地域経済活性化セミナー」を開催
- 2013年9月 国連グローバルコンパクトリーダーズサミットに参加
- 2013年9月 企業と社会フォーラム(JFBS)ジョイントカンファレンスに参加
- 2013年9月 CSRリスクマネジメントに関する国際会議に参加
- 2013年5月 「未来を変えるデザイン展」に参加

2013年12月 ワークショップ「三井物産のCSRと良い仕事」

2013年12月13日、日本大学商学部砦キャンパスにて、鈴木由紀子准教授とゼミ生22名とワークショップを行いました。最初に当社より「三井物産のCSRと良い仕事」についての簡単な講義を行い、その後、グループに分かれて学生一人ひとりが考えるCSR、企業のなすべきこと、当社の取り組みに関して等広く意見を交わしました。率直な質問や意見に、改めて色々な視点があることに気付かされ、有意義な時間となりました



2013年10月 「地域経済活性化セミナー」を開催

当社は、地域行政を担う地方自治体の人材育成と地域経済活性化への貢献を目的に、2013年10月15日・16日に都市センターホテルにおいて「地域経済活性化セミナー」を開催しました。このセミナーは2012年から始めたもので、2回目の開催となる今回は農林水産業の活性化をテーマに当社の具体的な取り組み事例の紹介とグループ討議を行いました。約30名の地方自治体職員に参加いただき、当社の支社・支店職員も加わって活発な議論が行われ、大変有意義なセミナーとなりました。



2013年9月 国連グローバルコンパクト リーダーズサミットに参加

2013年9月19日・20日にニューヨークにて開催された国連グローバルコンパクトリーダーズサミットに参加しました。リーダーズサミットは、2004年以降3年毎開催の国連グローバルコンパクトの総会にて、4回目となる今回は145カ国、国連関係者・政府関係者・民間企業トップマネジメント・NGO/NPO等総勢1200名が出席。当社の参加は2010年に続き2度目となります。2日間のプログラムでは、全体総会と個別セッションの二部構成により、Post MDGsを視野に「Architects of a Better World」の達成に向けた取り組みや行動目標について多岐に亘った議論がなされ、一企業の個別対応ではなく、同業者を含む企業連合体での対応等大きな枠組みでの対応の必要性を再認識しました。

2013年9月 企業と社会フォーラム(JFBS)ジョイントカンファレンスに参加

企業と社会にかかわるさまざまな課題について理論的・実務的な視点から考えていく学会「企業と社会フォーラム」(Japan Forum of Business and Society 以下JFBS)は、2013年9月19日・20日に“CSR & Corporate Governance”をテーマにフンボルト大学(独)とのJoint Conferenceを早稲田大学において開催し、世界各地の大学から教授や学生、会員企業関係者など総勢200名近くが参加しました。同Conferenceにおいて、当社CSR推進委員長である木下専務(当時)が「三井物産のCSRとコーポレートガバナンス」について講演し、確かな経営基盤のもと、本業を通じて社会の課題を解決する当社の幅広い事業、社会貢献活動や森の取り組みなどを紹介し、参加者と活発な意見交換が行われました。



2013年9月 CSRリスクマネジメントに関する国際会議に参加

2013年9月5日、東京国際フォーラムにて開催された「CSRリスクマネジメントに関する国際会議」(主催:経済人コー円卓会議日本委員会、国連「人権と多国籍企業及びその他の企業の問題」に関するワーキンググループ)へ協賛、ワークショップへ参加しました。リスクマネジメントの観点から、企業による人権デューデリジェンスのベストプラクティスを共有し、国連やNGOなど多様なステークホルダーと、「企業が人権デューデリジェンスにおいて踏まえておくべきCSRリスク」について対話を行いました。

2013年5月「未来を変えるデザイン展」に参加

2013年5月16日から6月11日東京ミッドタウンにて開催された「未来を変えるデザイン展」(主催:日本財団、後援:外務省、米国大使館、国際協力機構等)に出展。19の企業による社会課題解決の取り組みがデザイン化して展示され、当社はアフリカ・モザンビークにおける巨大LNGプロジェクトを通じて国創り・次代創りを目指す取り組みを紹介しました。デザイン展から遡ること一カ月、日本財団や大学生の皆さんと当社モザンビーク事業部の社員がモザンビークの未来について日々の業務から離れ「空想」するワークショップを行いました。「モザンビークの国創りに貢献したい。」「モザンビークには明るい未来が待っている。」その想いをデザイン化したものが当社展示物の“Light Up Mozambique”です。三井物産が目指す「本業を通じたCSR」を広く理解いただく貴重な場となりました。



2013年1月「良い仕事」座談会

CSR推進委員長の木下専務(当時)と同副委員長の田中常務(当時)を交えて、若手社員6名と「良い仕事」について語り合いました。「良い仕事」とは「正解はなく何度も咀嚼できるもの」「がむしゃらに仕事をするからこそ時に立ち止まって考えるもの」「名脇役を演じることでの貢献」などさまざまな意見があり、一人ひとり、その時々考えることの大切さをあらためて感じる機会となりました。



2012年12月「原点から未来へのCSR」

出席者 : 高 巖 麗澤大学大学院 経済研究科教授
大久保 和孝 新日本有限責任監査法人CSR推進部長
公認会計士・公認不正検査士
鈴木 徹 執行役員機能化学品本部長(当時)
ファシリテーター: 安永 竜夫 経営企画部長(当時)



当社のCSRへの取り組みを振り返り、今、社員が意識しなくてはならないこと、今後に向けて求められることについて有識者の方々にご意見を伺いました。「ステークホルダーとの対話」「イノベーション」「サプライチェーン」「現場力」「求められるリーダー像」など幅広く議論が交わされました。

なお、本エンゲージメントの内容は、社内誌『MBK LIFE』、および社内イントラに掲載して情報共有を推進、社員一人ひとりの日々の業務に活かせるヒントを得ることができました。



2011年11月「消費者向け不動産事業分野での取り組みについて」

出席者：井出 多加子 成蹊大学経済学部教授
土田 あつ子 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会主任研究員
コンシューマーサービス事業本部都市開発事業部

井出教授からは政府や学会の動向を踏まえた意見をいただき、土田主任研究員からは消費者の視点でさまざまな指摘を受けました。本エンゲージメントで受けた意見や指摘を今後の事業活動に活かしていきます。